



桃山学院大学・内山ゼミの皆さんへ

センビライ小・中学校教員のパチャンペン・ティツパポーン、ナムです。桃山学院大学・内山ゼミの皆さん、今年2月15日には本校を訪問、生徒たちと交流していただき、誠にありがとうございました。内山ゼミの皆さんとの親善交流により、本校の生徒たちは日本に対して、強い関心を待つようになりました。午前に行われた皆さんのプレゼンテーションでは、日本とラオスの経済関係や大阪の魅力、日本の文化や歌など、日本に関する様々な知識を得ました。特に、ご紹介いただいた日本特有の言葉 “もったいない” や “切ない” など、生徒の皆はずっと覚えています。午後には実施された、野球教室やバレーボール親善試合など、スポーツ交流は子どもたちに大好評でした。皆さんの訪問から2カ月経った今でも、生徒たちから、次回の交流について、質問や要望をされることがあります。「もっとスポーツの交流時間を長くしてほしい」とか「また野球を体験したい」、「いろんなスポーツでもっと試合をしたい」、「来年も内山ゼミの皆さんに来てほしい」などです。生徒たちは次回の交流に期待を膨らませています。

また先日は、様々な種類の学習教材や日本語の絵本、スポーツ用品、伝統的な玩具など、たくさんの贈呈品をお送りいただき、ありがとうございました。本校の生徒に、それらをお披露目する機会を作りました。生徒たちはすぐに絵本や玩具を手に取り、興味津々でした。そして一緒にゲームを楽しんだり、私から日本

語教室を実施したりしました。この機会に、内山ゼミの「桃山祭での東南アジア諸国の魅力を伝える展示会と模擬店」、「日ラオス友好促進活動」から、本校との親善交流や物資の贈呈が実現したことなど、一連の流れを改めて説明しました。生徒たちは皆、納得した様子で、とても嬉しい気持ちになりました。「日本の方は思いやりがある」、「このような事を初めて体験した」と生徒たちは話していました。内山ゼミの皆さんに対して感謝の気持ちでいっぱいです。

このような素晴らしい親善交流の機会を本当にありがとうございました。生徒たちにとって、かけがえのない時間となりました。今後もゼミの活動の一環で、本校にお越しいただきましたら幸いです。センビライ小・中学校一同、心よりお待ちしております。

2024年4月13日

センビライ小・中学校教員
パチャンペン・ティッパポーン



